

あれこれ情報版



今年も10月からインフルエンザワクチンの接種が始まります。昨年はワクチンの数が足りずにご迷惑をおかけいたしました。今年は大丈夫そうですが、念のためご希望の方は早めに予約・接種をお願いいたします。



集中豪雨、地震、台風、そしてまた地震……。日本中が自然を前に何もできないことを嫌と思い知らされたできごとでした。近所では、深江駅前が川の氾濫で浸水がひどかったようです。心よりお見舞い申し上げます。



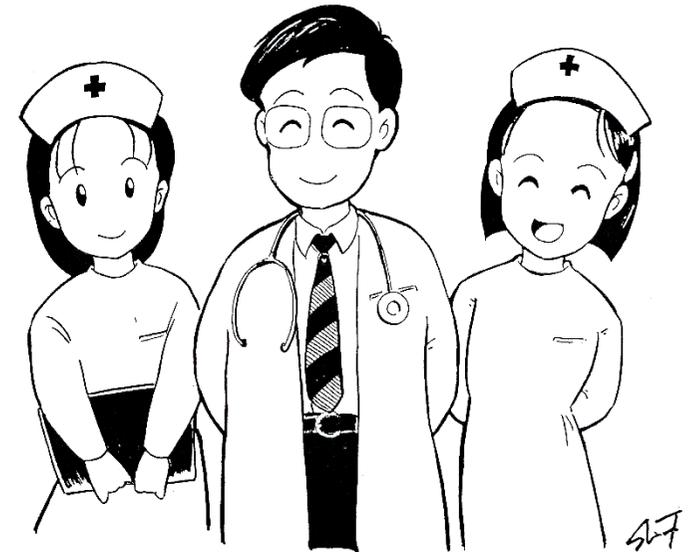
みなさまに応援いただいております黒柴犬ルカが8月に18歳で召天いたしました。家族みんなで泣きながらお別れをしました。いつも一緒に居てくれていた、なにげない日々が改めて胸の痛みとともに懐かしく、有難く思い出されます。ご心配くださっていたみなさま、ありがとうございました。



夏休みにチェジュ島に行ってきました。チェジュ島の特産はみかん。昔、和歌山県から苗を持ってきたそうで、確かに味は日本のみかんと同じでした。チェジュ島に多いもの3つは石、風、女性。無いもの3つは泥棒、物乞い、門だそうです。

すこやか通信

'18 9-10月号 Vol.126



児島医院

内科・循環器内科・小児科・皮膚科

神戸市東灘区深江北町 2-8-26

☎078-431-0696

診察室こぼれ話

性行為や類似の行為で伝播する性感染症がありますが、1990年前後までは性病という言葉で呼ばれることが多かったようです。1999年4月に施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」があります。その中で、性器クラミジア感染症、性器ヘルペス、尖圭（せんけい）コンジローマ、淋菌感染症は5類定点把握疾患として、発症の数が、前もって決められた医療機関から保健所に毎月1回報告されています。梅毒と後天性免疫不全症候群（HIV感染症/AIDS）は5類全数把握疾患として診断した医師は必ず保健所に届ける必要があります。

以上の代表的な6疾患を含めて性感染症はおおよそ20くらいの病気があります。その中でも最近改めて注意が喚起されている感染症が梅毒です。

20世紀後半にはかなり減少していましたが、ここ数年の間、毎年1.5~2倍という速度で増加がみられます。特に、2011年以降日本で増加しています。男性では20~40代の幅広い年齢層から報告されていますが、女性では20代前半の若年層からの報告が多いです。妊婦がかかると胎児に感染し、先天梅毒という重大な疾病にかかる可能性が高くなるので、妊婦健診での梅毒のスクリーニング検査の重要性が再認識されています。梅毒は梅毒トレポネーマによる性感染症です。梅毒にはペニシリンが特效薬です。梅毒の初期、感染してから3週間くらいで性器にかたいしこりの

病変ができて、やがてそれが潰瘍のようになります（第1期）。しかし、いったんはそれが治ったように皮膚病変はおさまります。それから感染後3か月でトレポネーマが血液にのって全身に散布されます（第2期）。バラ疹というピンク色の発疹がでたりします。この時期までに診断され抗生剤を投与すると、しこりのような結節ができる第3期に進行することはありません。現代では梅毒以外で抗生剤を使用することが多いので結節性の梅毒疹をみることは少ないと言われています。



また、ヒトパピローマウイルス（HPV）は性交経験のある人は男女を問わず、ほぼすべて感染しています。性感染症としては前述した尖圭コンジローマの原因ウイルスですが、関連性が深く罹患患者が多いのが子宮頸がんです。HPV関連がんは子宮頸がん以外に肛門がん、膣がんなどがあり、男性でも陰茎がんがあります。HPVワクチンは、海外では男性のHPV関連がんにも有効であるため、学童女子に加えて学童男子も定期接種の対象になっています。

しかし、日本ではHPVワクチンの副反応の報道が拡散されて以降、2013年6月以降は定期接種でありながら、接種の勧奨を中止する事態になり、4年半が経過した今も勧奨が再開されていません。